

ルの整備と観測網の構築である。PM_{2.5}に関しては、監視態勢の確立段階から対策段階へと軸足を移す時期にさしかかりつつあることを考えると、これらの課題を解決すべく研究テーマを設定するのが重要であると考えられる。

PM_{2.5}は2013年の初めに大きな社会的関心を集めたこともあり、初日の朝一番のセッションにもかかわらず会場の定員を超える100名以上の聴講者が集まり、時間いっぱいまで熱心な討論が行われた。また、Ⅱ型共同研究の成果をまとめた形で発表できたことは、全国環境研協議会の活動をアピールできたと思う。

<プログラム(氏名は演者のみ)>

座長：菅田誠治(国立環境研究所)

- (1) 微小粒子状物質(PM_{2.5})及び光化学オキシダント対策の動向 後藤 隆久(環境省)
- (2) 地方環境研究所の共同による光化学オキシダントの挙動解析
板野 泰之(大阪市立環境科学研究所)
- (3) 光化学オキシダント測定法の変遷とトレンド解析における問題点
長田健太郎(山口県環境保健センター)
- (4) 地方環境研究所の共同によるPM_{2.5}観測
長谷川就一(埼玉県環境科学国際センター)
- (5) PM_{2.5}発生源寄与評価の現状と展望
飯島 明宏(高崎経済大学)

■ 支部 だ よ り ■

中国・四国支部

平成25年度の中国・四国支部の活動状況および予定について報告します。

平成25年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議

・期 日：平成25年8月5日(月)

・会 場：鳥取県衛生環境研究所

鳥取県湯梨浜町南谷526-1

・参加者：21名(環境省1名, 検討委員3名, 日本環境衛生センター1名, 会員機関)

・議 事

- 1) 環境測定統一精度管理調査について
環境省水・大気環境局総務課
環境管理技術室 大久保室長補佐
- 2) 平成24年度環境測定分析統一精度管理調査結果について
(一財)日本環境衛生センター
環境科学部 西尾主査

- 3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

産業技術総合研究所地質情報研究部門

地球化学研究グループ 岡井グループ長

環境省環境調査研修所 牧野講師

愛媛大学農学部環境計測学 松田助手

- 4) 質疑応答

なお、「平成26年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議」については、平成26年8月5日実施予定。中国・四国支部担当機関は、香川県環境保健研究センター。